



## 2009年度 カンボジア・スタディツアー参加者報告

(財)日本ユニセフ協会学校事業部では、事業を指定した募金をカンボジアとモンゴルで行い、支援を続けています。毎年、支援国の子どもたちの状況や事業の取り組みを先生方に視察いただき、学校や地域での学習や広報活動に役立てていただいています。今回は、2009年度のカンボジア・スタディツアーに参加された小学校の先生の感想とその後の学校での取り組みを紹介いたします。



©日本ユニセフ協会  
スタディツアー参加者

### 日 程

2009年7月19日(土)～26日(日)

### 日本ユニセフ協会 が支援する事業

長く続いた紛争が終わり、普通選挙が実施されるようになったカンボジアで、子どもの権利を基盤として、幼稚園教育の充実、予防接種の普及、また、安全な水の確保、衛生的なトイレの設置、衛生に関する知識の普及などを支援する事業です。

### 視 察 概 要

- ①幼稚園・小学校及び教員への支援活動
- ②安全な水の確保・衛生的なトイレの設置・衛生知識の普及に対する支援活動
- ③保健センターへの支援活動
- ④HIV/エイズに対する支援活動

## 鹿児島県指宿市立丹波小学校

5年2組担任 島 奈穂

### 視察の動機

昨年、6年生と「世界の平和と日本の役割」を学習した後、子どもたちが「カンボジアの学校に行けない子どもたちのために自分たちでできることはないか」と自ら話し合いを行い、募金活動を始めました。その子どもたちの感受性の強さと行動力に動かされました。教員という立場の自分ができることは何かと問われているような気がしました。そんな中、今回のスタディツアーを知り、実際に現地に行って体験し、現状を目にすることで、何か少しでもヒントになるものを見つけられるのではないかと思います。



©島 奈穂  
上：フェリー乗り場で野菜を  
売る子ども  
下：笑顔で「さようなら」

### 視察の感想

「学校に行っているんことが分かるようになってうれしい!」「もっと勉強したい!」と笑顔で話すたくさんのお子どもたちに出会えたことが印象



©島 奈穂  
たくさんさんの「スマイル」

に強く残っています。「素直さ」や「礼儀正しさ」、「優しさ」、「人と人とのつながりの強さ」といったものをカンボジアの人々から教わった気がしました。

視察に参加して思ったことは、自分の目で見てきたことや感じたこと、学んだことを正しく日本の子どもたちに伝えなければならないということです。日本の子どもたちに、カンボジアの子どもたちの素晴らしさを知ってもらい、そこから「自分たちに何ができるか」「何をすべきか」ということを考えられる子どもたちを育てたいと思いました。

日本もカンボジアも、それぞれの国がお互いを尊重し、お互いが強い絆で結ばれるように、少しでも多くの子どもたちの笑顔を作っていきたいと思います。